



平成28年11月9日

各 位

会 社 名 ダブル・スコープ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 崔 元 根
 (コード番号 6619 東証第一部)
 問合せ先 取締役 CFO 兼経営企画本部長
 竹 居 邦 彦
 (TEL 03 - 5436 - 7155)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成28年5月10日付で公表しました業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

●業績予想の修正について

平成28年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,000	2,600	2,500	2,300	80.94
今回修正予想(B)	9,000	2,300	2,100	1,700	57.80
増減額(B-A)	△1,000	△300	△400	△600	
増減率(%)	△10.0	△11.5	△16.0	△26.1	
(ご参考)前期実績 (平成27年12月期)	7,448	1,982	2,054	1,829	64.52

(注)平成28年7月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり当期純利益」を算定しております。

前期実績の営業利益には営業外収益に表示していた作業くず売却益73百万円を含めて表示しております。

【修正の理由】

当社が属するリチウムイオンバッテリー業界のマクロ環境は民生用の用途拡大、EVやEVバス等車載用途の需要拡大を背景に、リチウムイオン二次電池用セパレータの市況においても上昇局面が続いており、高成長が続くものと見込まれます。これらを受け主要顧客からの需要は一貫して高水準を維持しておりますが、為替の影響や9月に量産移行が完了した第6・7号の初期稼働時期のずれ込み、第5号ラインの量産移行への遅延により、増強したラインによる生産数量が計画を下回った結果、売上は対前期比では通増に留まると予想しております。

今回の第5号ラインの遅延の詳細に関しましては、同日付公表『生産設備第6・7号ライン量産移行完了及び第5号ライン出荷開始について』をご参照ください。なお、すでに技術的課題の解消に目途を付けており、当社の中長期的な増産計画への影響は一時的なものであります。

(第4四半期の見直し)

当社グループの主力事業であるリチウムイオン二次電池用セパレータ事業における経営環境に大きな変化はなく、安定的に推移すると想定しておりますが、限られた生産能力の影響から売上は対前期比では通増に留まると予想しております。

第4四半期の想定為替レートにつきましては、昨今の為替相場等を鑑み、下記の通り見直しております。

	期初想定 為替レート	第4四半期 想定為替レート	差異
円対1米ドル	105円	100円	5円
円対1,000ウォン	100円	95.2円	4.8ウォン
ウォン対1米ドル	1,050ウォン	1,050ウォン	-

以上の要因から、平成28年5月10日付の公表数値を修正いたします。

【業績予想に関する留意事項】

業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以 上